

平成 19 年大阪市消防活動概況

～ 火災件数は昨年比 58 件増加、火災による死者は減少
救急出場は減少～

大阪市消防局では、平成 19 年中の大阪市内での火災、救急、火災・救急以外の消防活動等の概況を取りまとめました。(数値はすべて速報値です。詳細は、P.3～)

火災件数 1,392 件(昨年比 58 件 4.3%増)

救急出場件数 204,373 件(同 663 件 0.3%減)

火災・救急以外の消防活動 4,759 件(同 5 件 0.1%増)

【火災概況】

- 1 平成 19 年中の火災概況については、火災件数、焼損床面積、損害額については昨年(平成 18 年)より増加したが、火災による死者は減少した。
- 2 火災原因の第 1 位は「放火(疑いを含む 以下同じ。)」486 件で、昨年と比較すると 6 件増加しており火災件数全体のうち「放火」が占める割合は 34.9%で火災原因の第 1 位(32 年間連続)となっている。
- 3 火災原因の第 2 位は「たばこ」209 件で、昨年と比較すると 18 件増加している。
- 4 火災原因の第 3 位は「天ぷら油」114 件で、昨年と比較すると 2 件増加している。

【救急概況】

- 1 平成 19 年中の救急出場件数は、204,373 件で、昭和 52 年から 30 年間増加を続けていたが、若干の減少に転じた。
- 2 救急出場件数は、昨年と比較すると 663 件(0.3%)の減少。
- 3 搬送人員は、173,932 人で、昨年と比較すると 5,743 人(3.2%)減少。

【火災・救急以外の消防活動概況】

- 1 火災・救急以外の消防活動(建物内の事故・交通事故・水難事故・EV 事故時の救出活動等)は、4,759 件でした。
- 2 救助活動は、1,963 件で、昨年と比較すると 36 件増加している。

平成 19 年消防活動概況表

	平成19年	平成18年	増減数	増減率
火災件数(件)	1,392	1,334	58	4.3%
焼損床面積(m ²)	14,924	8,324	6,600	79.3%
損害額(千円)	1,455,880	969,364	486,516	50.2%
火災による死者(放火自殺者を除く)(人)	28	42	-14	-33.3%
放火自殺者	9	7	2	28.6%
負傷者(人)	270	286	-16	-5.6%
救急出場件数(件)	204,373	205,036	-663	-0.3%
搬送人員(人)	173,932	179,675	-5,743	-3.2%
火災・救急活動以外の活動(件)	4,759	4,754	5	0.1%
誤報(件)	2,196	2,180	16	0.7%
虚報(件)	162	172	-10	-5.8%

【詳細 目次】

1 火災概況

- (1) 火災件数……………3
- (2) 火災種別……………3
- (3) 火災原因別……………4

2 救急概況

- (1) 救急件数……………6
- (2) 事故種別……………7

3 火災・救急以外の消防活動概況……………8

1 火災概況

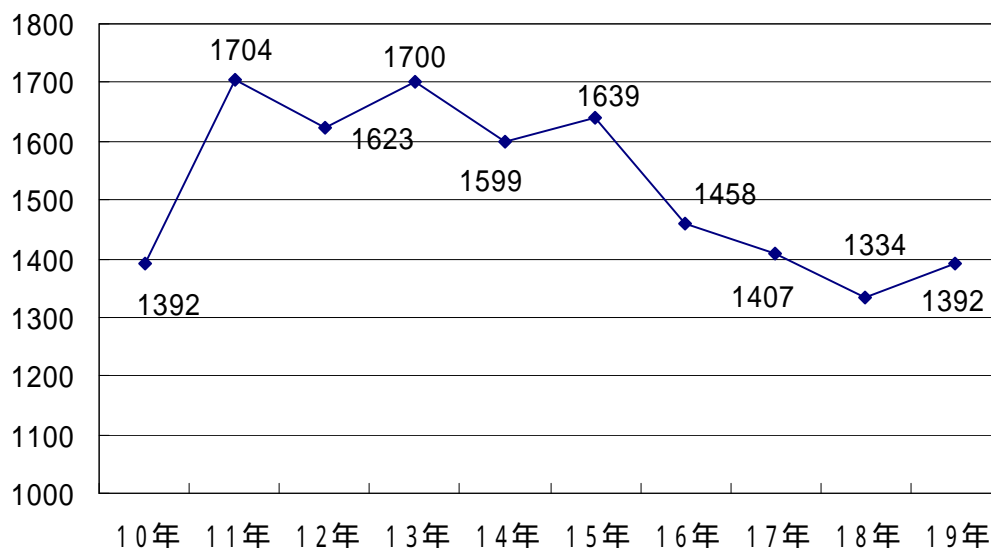
(1) 火災件数～ 昨年(平成 18 年)に比べ 58 件増加

平成 19 年中に大阪市内で発生した火災件数は 1,392 件で、昨年と比較すると 58 件(4.3%)増加しました。火災件数は、平成 16 年から減少傾向が続いていましたが平成 19 年は、若干の増加となりました。(図1 - 1) 火災による死者(放火自殺者の 9 人を除く)は 28 人となり、昨年と比較すると 14 人減少しています。平成 19 年中大阪市内では、1 日あたり 3.8 件(昨年比 + 0.1 件)の火災が発生し、40.9 m²(同 + 18.1 m²)焼損し、損害額は約 399 万円(同 + 133 万円)となりました。(表1 - 1)

(2) 火災種別～ 建物火災が 39 件増加

火災種別でみると、「建物火災」が最も多く 945 件で、昨年と比較すると 39 件(4.3%)増加しています。「車両火災」については 20 件(- 14.8%)減少しています。(表1 - 1)

(図1 - 1) 過去 10 年の火災件数



(表1 - 1) 火災概況

区 分		単 位	平成 19 年 (A)	平成 18 年 (A)	比 較 (A-B)	増減率(%)
火 災 件 数		件	1,392	1,334	58	4.3
火 災 種 別	建 物	件	945	906	39	4.3
	車 両		115	135	-20	-14.8
	船 舶		3	2	1	50.0
	爆 発		1	0	1	150.0
	そ の 他		328	291	37	12.7
建 焼 物 損 火 程 災 度	全 焼	件	44	16	28	175.0
	半 焼		43	57	-14	-24.6
	部 分 焼		271	255	16	6.3
	ぼ や		587	578	9	1.6
焼 損 床面積	面 積	m ²	14,924	8,324	6,600	79.3
	建 物 火 災 1 件 当 り		15.8	9.2	6.6	71.7
損 害 額	損 害 額	千円	1,455,880	969,364	486,516	50.2
	火 災 1 件 当 り		1,045.9	726.7	319.2	43.9
死 傷 者	死 者	人	28	42	-14	-33.3
	放 火 自 殺 者 除 け		9	7	2	28.6
	負 傷 者		270	286	-16	-5.6
1 当 日 り	火 災 件 数	件	3.8	3.7	0.1	2.7
	焼 損 面 積	m ²	40.9	22.8	18.1	79.4
	損 害 額	千円	3,988.7	2,655.8	1,332.9	50.2
人 口 1 万 人 当 り 火 災 件 数		件	5.3	5.1	0.2	3.9

(平成 19 年 10 月 1 日現在推計 人口 2,643,805人)

(平成 18 年 10 月 1 日現在推計 人口 2,635,450人)

(3) 火災原因別～ 「放火」は昨年(平成 18 年)に比べ 6 件増加し、火災件数全体に占める割合は 34.9%で 32 年間連続 1 位。2 位の「たばこ」は 18 件増加

平成 19 年中の火災件数のうち、「放火」による火災は 486 件発生しており、昨年と比較すると 6 件の増加で火災全体の 34.9%を占め、依然として火災原因の第 1 位(昭和 51 年から 32 年連続)となりました。(表 1 - 2、図 1 - 2)

次いで「たばこ」による火災は 209 件発生し、昨年と比較すると 18 件の増加となっています。

3 位の「天ぷら油」による火災は 114 件で、「放火」、「たばこ」、「天ぷら油」の 3 要因で全体の約 6 割を占めており、この順位は昭和 59 年以降変動がありません。

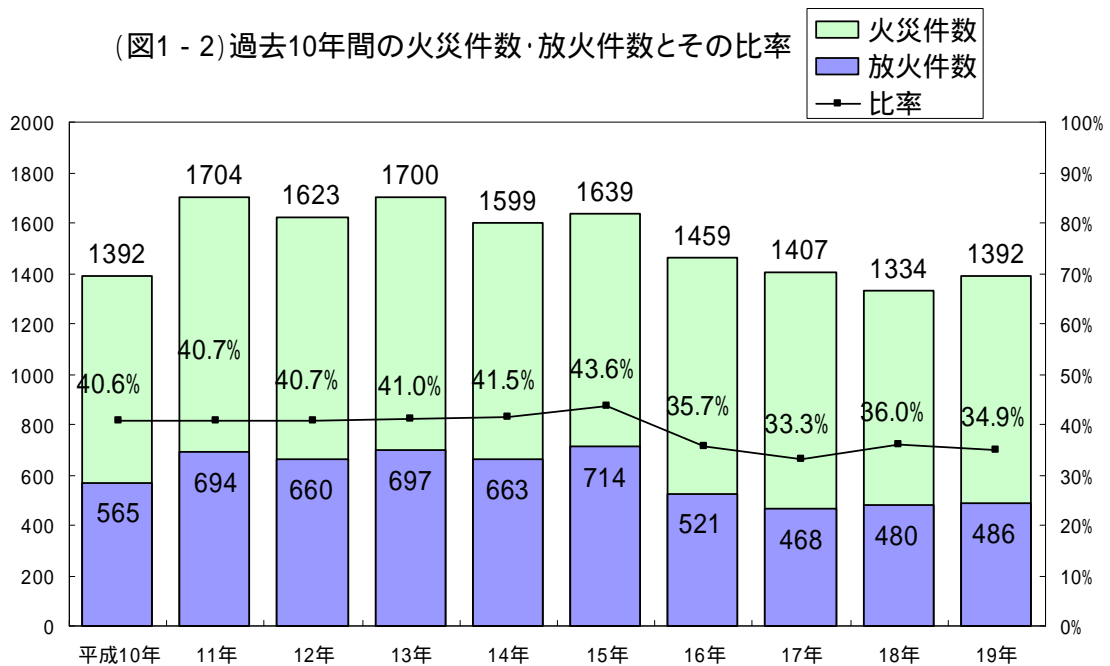
(表 1 - 2、図 1 - 3)

(表1 - 2) 原因別火災概況

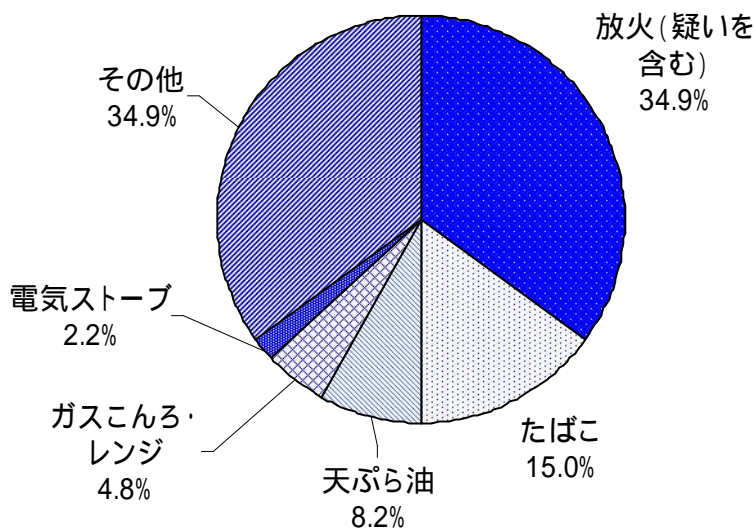
原因別	平成 19年		平成 18年		比較 (A-B)
	件数 (A)	比率 (%)	件数 (B)	比率 (%)	
放火(疑い含む)	486	34.9	480	36.0	6
たばこ	209	15.0	191	14.3	18
天ぷら油	114	8.2	112	8.4	2
ガスこんろ・レンジ	67	4.8	64	4.8	3
火遊び	33	2.4	27	2.0	6
電気ストーブ	30	2.2	36	2.7	-6
溶接(断)機	26	1.9	28	2.1	-2
マッチ・ライター	26	1.9	22	1.6	4
接続器	25	1.8	13	1.0	12
コンデンサー	13	0.9	8	0.6	5
ローソク	12	0.9	18	1.3	-6
石油ストーブ	8	0.6	12	0.9	-4
内燃機関	8	0.6	13	1.0	-5
屋内配線	8	0.6	4	0.3	4
排気管	8	0.6	3	0.2	5
たき火	7	0.5	13	1.0	-6
交通機関内配線	6	0.4	10	0.7	-4
焼却炉	6	0.4	4	0.3	2
火薬加工品	6	0.4	7	0.5	-1
電気こんろ	5	0.4	4	0.3	1
その他	133	9.4	156	11.8	-23
不明	145	10.4	109	8.2	36
調査中	11	0.8	0	0.0	11
合計	1,392	100	1,334	100	58

注：溶接(断)機とは、ガス溶接(断)機・電気溶接機をいう。
 その他とは、上位第21位以下の原因の総件数である。

(図1 - 2) 過去10年間の火災件数・放火件数とその比率



(図1 - 3) 原因別火災概況



2 救急概況

(1) 救急出場件数～ 昭和 52 年から 30 年間増加を続けていたが若干の減少

平成 19 年中の救急出場件数は 20 万 4,373 件で、昨年(平成 18 年)と比較すると 663 件(0.3%)減少で、搬送人員は 17 万 3,932 人で、昨年と比較すると 5,743 人(3.2%)減少となりました。

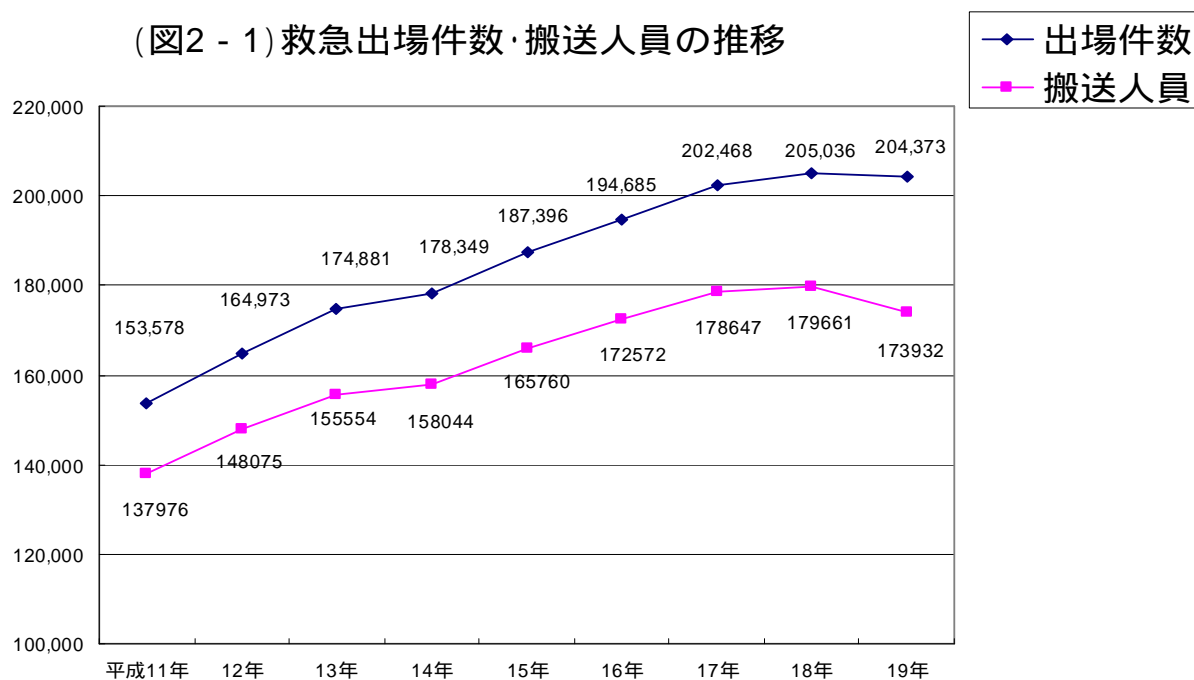
救急出場件数は昭和 52 年から 30 年間連続で増加していましたが平成 19 年は、若干の減少に転じました。

また、1 日あたりに換算してみると、出場件数は約 560 件で、時間に換算すると約 2.6 分に 1 回救急車が出場したことになります。(表 2 - 1、図 2 - 1)

(表 2 - 1) 救急活動概況

		平成 19 年 (A)	平成 18 年 (B)	増 減 (A - B)
出場件数(件)		204,373	205,036	-663
搬送人員(人)		173,932	179,675	-5,743
1 日 あ た り	出場件数	560	562	-2
	搬送人員	477	492	-15

(図2 - 1) 救急出場件数・搬送人員の推移



(2) 事故種別

事故種別順では、「急病」が135,595件で、昨年(平成18年)と比較すると942件(0.7%)減少となりましたが最も多く、ついで「一般負傷」、「交通事故」となっています。(表2-2)
「一般負傷」は、昨年と比較すると1,238件(4.5%)の増加となっているが、「急病」(-942件)、「交通事故」(-587件)、「加害」(-154件)等は、いずれも昨年に比べて減少しました。

(表2 - 2) 事故種別救急出場件数

	平成19年 (A)	平成18年 (B)	増減 (A - B)	増減率
急病	135,595	136,537	-942	-0.7%
一般負傷	28,916	27,678	1,238	4.5%
交通事故	19,033	19,620	-587	-3.0%
加害	3,796	3,950	-154	-3.9%
自損	2,554	2,627	-73	-2.8%
労働災害	1,327	1,339	-12	-0.9%
火災	1,367	1,320	47	3.6%
運動競技	932	935	-3	-0.3%
水難	33	35	-2	-5.7%
自然災害	0	0	0	-
その他	10,820	10,995	-175	-1.6%
計	204,373	205,036	-663	-0.3%

3 火災・救急以外の消防活動概況

火災・救急以外の消防活動(建物内の事故・交通事故・水難事故・EV 事故時の救出活動等)は、4,759 件で、昨年(平成 18 年)と比較すると 5 件(0.1%)の増加でした。

このうち救助活動は、1,963 件(同 + 36 件 + 1.9%)、危害の排除は、1,223 件(同 - 1 件 - 0.1%)となりました。(表 3 - 1)

(表 3 - 1)火災・救急以外の消防活動概況

		平成 19 年	平成 18 年	増減	増減率
		(A)	(B)	(A - B)	
救助活動	建物事故	1,204	1,131	73	6.5%
	交通事故	235	295	-60	-20.3%
	水難事故	98	91	7	7.7%
	エレベーター事故	42	68	-26	-38.2%
	機械事故	27	30	-3	-10.0%
	その他	357	312	45	14.4%
	小 計	1,963	1,927	36	1.9%
危害排除	危険物	667	674	-7	-1.0%
	倒壊建物	60	39	21	53.8%
	異 臭	79	65	14	21.5%
	ガ ス	90	79	11	13.9%
	排 水	55	61	-6	-9.8%
	その他	272	306	-34	-11.1%
	小 計	1,223	1,224	-1	-0.1%
水 防 活 動		2	21	-19	-90.5%
その他の消防活動		1,571	1,582	-11	-0.7%
合 計		4,759	4,754	5	0.1%

注: 救助活動の建物事故とは、建物内での閉じ込め、転落、挟まれ等の事故をいう。

危害排除活動の危険物とは、ガソリン漏れの事案等をいう。

その他の消防活動とは、火災にいたらなかった事案等をいう。